

診療科紹介 Vol.15

眼科



現在当科では、スタッフ3.5名、レジデント1名で診察・手術を行い、視力や画像撮影などの検査は、視能訓練師2名で行っています。手術では、時に難症例とも闘っています(図1~5)。

当科の外来患者さんの大多数は高齢者です。近くにご家族がおられる方は一緒に来院されることが多いですが、近年は施設の方と一緒に来られたり、独居のためお一人で受診されたりする方も増えたように思います。

疾患名	症例数
白内障	477
裂孔原性網膜剥離	31
黄斑上膜	18
黄斑円孔	16
緑内障	16
硝子体出血	15
翼状片	15
糖尿病網膜症	7
眼瞼内反	6
増殖性網膜硝子体症	2

2017年 眼科入院主要疾患

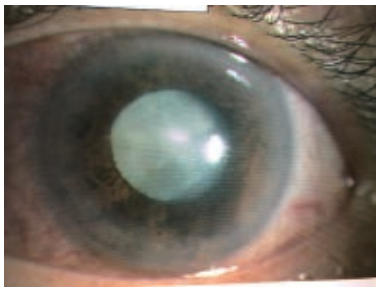


図1 白内障難症例



図2 眼内レンズ偏位

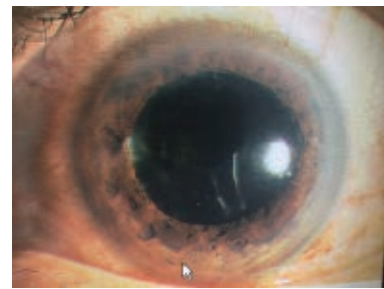


図3 水晶体再建術後

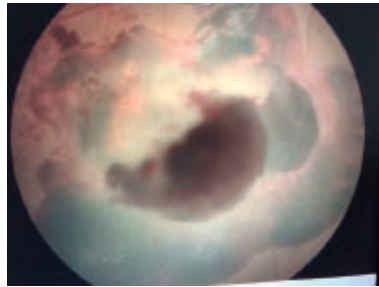


図4 増殖性糖尿病網膜症

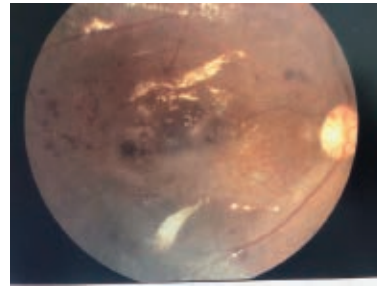


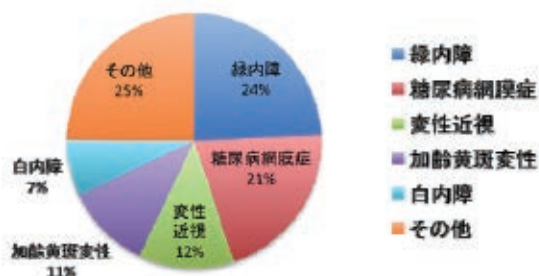
図5 硝子体術後

日本眼科医会が発表した2007年の視覚障害の原因の内訳は図6で、ほとんどが慢性疾患です。高齢者増加に伴い視覚障害者数のピークは2030年(図7)、視覚障害者がもたらす社会的損失額は8.8兆円になると試算されています。

白内障など、手術で治せるものは全体のごく一部にすぎません。いかに慢性眼疾患を悪化させずに個々の視力を維持していくかが国民全体にとって大切なことになってきます。

全身状態に関連して発症する眼疾患も多いため、とくに眼科・内科開業医の先生方には日頃からご協力・ご指導頂いており感謝申し上げます。当科では、治療できる疾患は治療し、進行中であつたり活動性の高かつたりする慢性疾患に対してはその病状を安定させるよう努力して、先生方に患者さんをご紹介することを目標としています。

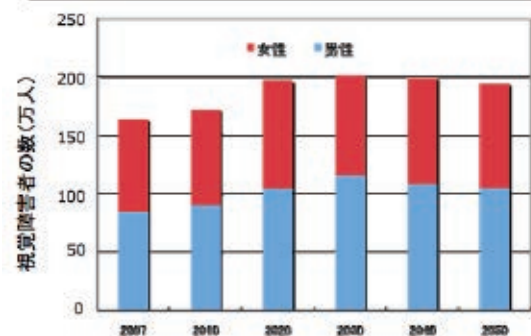
視覚障害者数の原因疾患別内訳 視覚障害全体(良い方の視力<0.5)



- 緑内障が1位、糖尿網膜症が2位
- 上位5疾患で全体の3/4を占める

図6

視覚障害者数の推移:将来予測



- 高齢化社会を反映して2030年まで増加
- その後は総人口の減少により漸減

図7